

日常に散らばり、目には見えないけど確かに存在する。

音は言葉を超えて感覚に響く。しかし、その表現は文化や言語によって異なる。日本では川の流れを「さらさら」、海外では「babble」や「gurgle」と表現するように、同じ音も捉え方が変わる。オノマトペを可視化するインスタレーションを通じて、音の多様性を体験する空間をつくる。訪れた人々が感じた音をアクリル板に書き込むことで、異なる文化や世代の音が浮かび上がる。鴨川デルタは、川のせせらぎ、風のざわめき、鳥のさえずり、人々の会話が響き合う、音の交差点。ここで異なる文化のオノマトペが交わり、やがて一つの風景をつくる。それはまるで、音によって編まれる新しい風流のかたち——人々の感性が響き合う場となる。

